

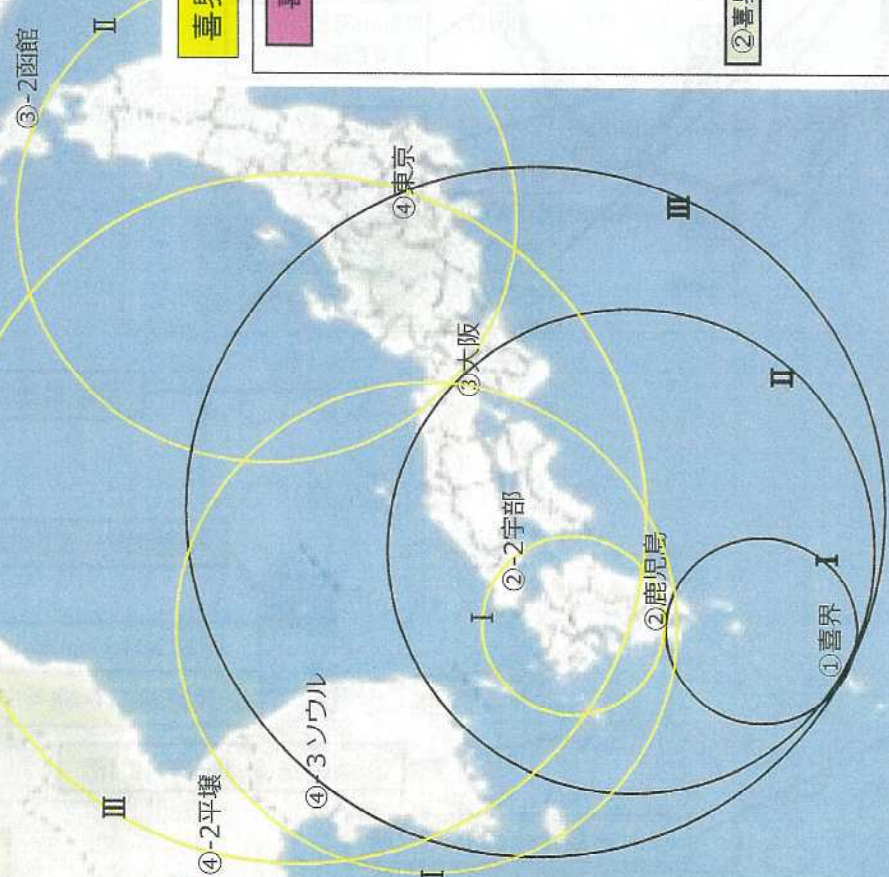
資料6. 学生配布資料(3)

平成30年度 アイランド キャンパス事業 【資料編1】

【目次】

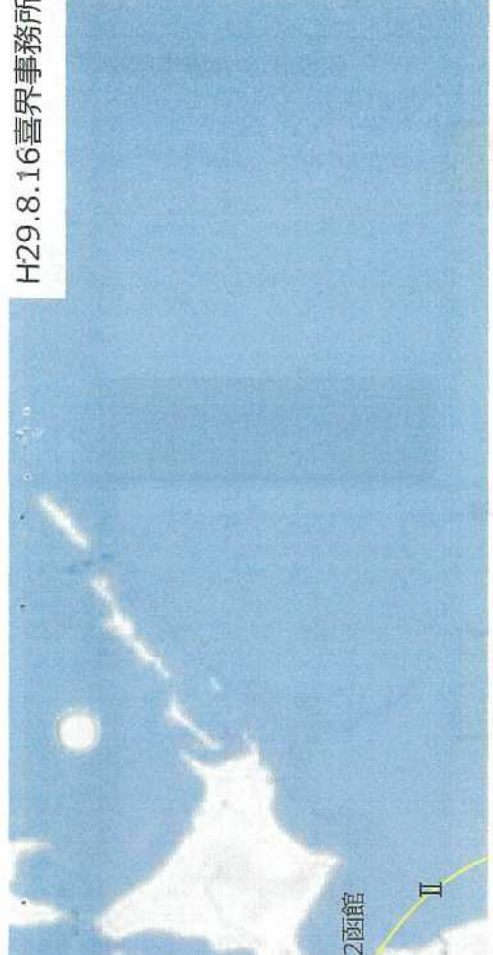
(I)	喜界島の概況	1 ~ 16
1	位置	1
2	面積	2~4,6
3	人口	5~ 6
4	道路	2
5	港湾施設	2
6	海上交通路	2
7	航空路線(喜界空港)	2,7
8	農業関係	8~ 10
9	歴史	11~ 16
(II)	喜界島の観光	-
(III)	喜界島の再生可能エネルギー等	7 ~ 23
1	再エネ等導入推進 基金事業(GND事業)	17
2	二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金事業	18~ 20
3	喜界町に適した再エネは？	22
4	喜界町再エネ事業化計画策定委員会の設置	-
5	再エネ賦課金とは？	23
(IV)	喜界高校生の職場体験学習受入	24 ~ 31
(V)	喜界島の文学	32 ~ 38
1	「小さな島の小さな物語」-あとがき-	32
2	「小さな島の小さな物語」の世界	33~ 36
3	安達征一郎略年譜	37~ 38

喜界島の位置

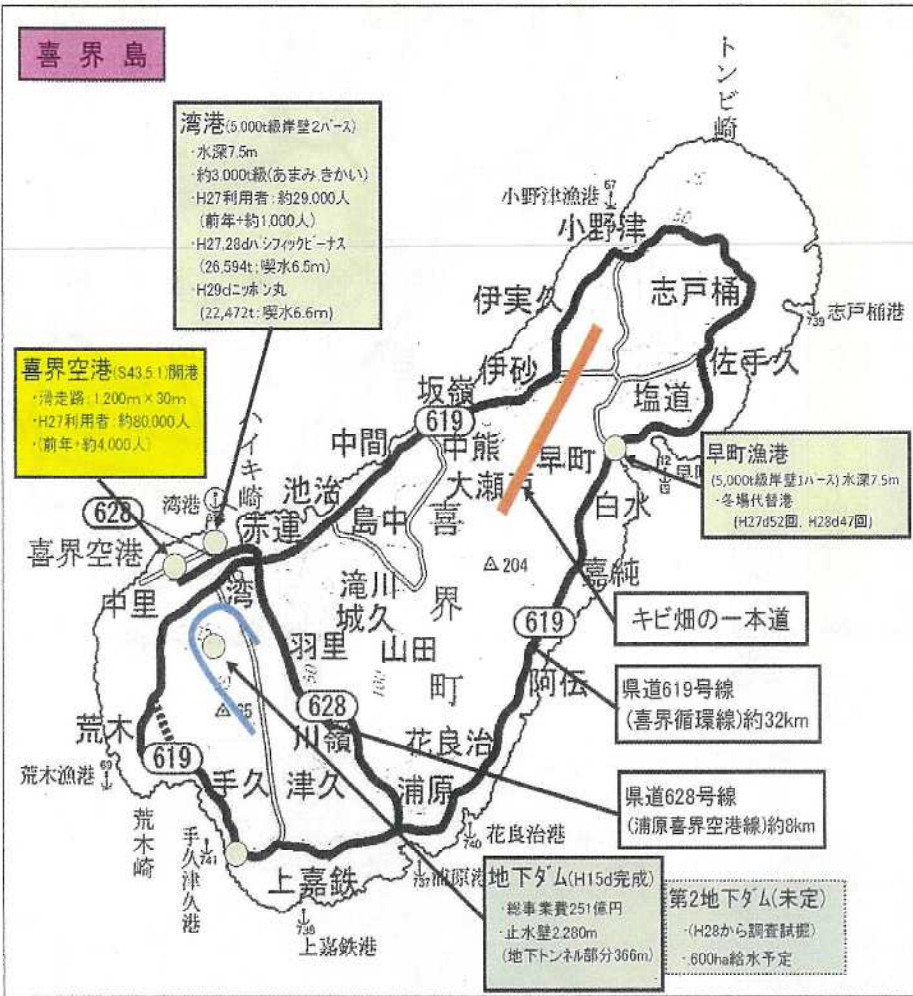


- I ①喜界 ⇔ ②鹿児島 = 約380km ⇔ ②-2 宇部
- II ①喜界 ⇔ ③大阪 = 約930km ⇔ ③-2 函館 ⇔ ソウルと平壤の間
- III ①喜界 ⇔ ④東京 = 約1,300km ⇔ ④-2 平壤

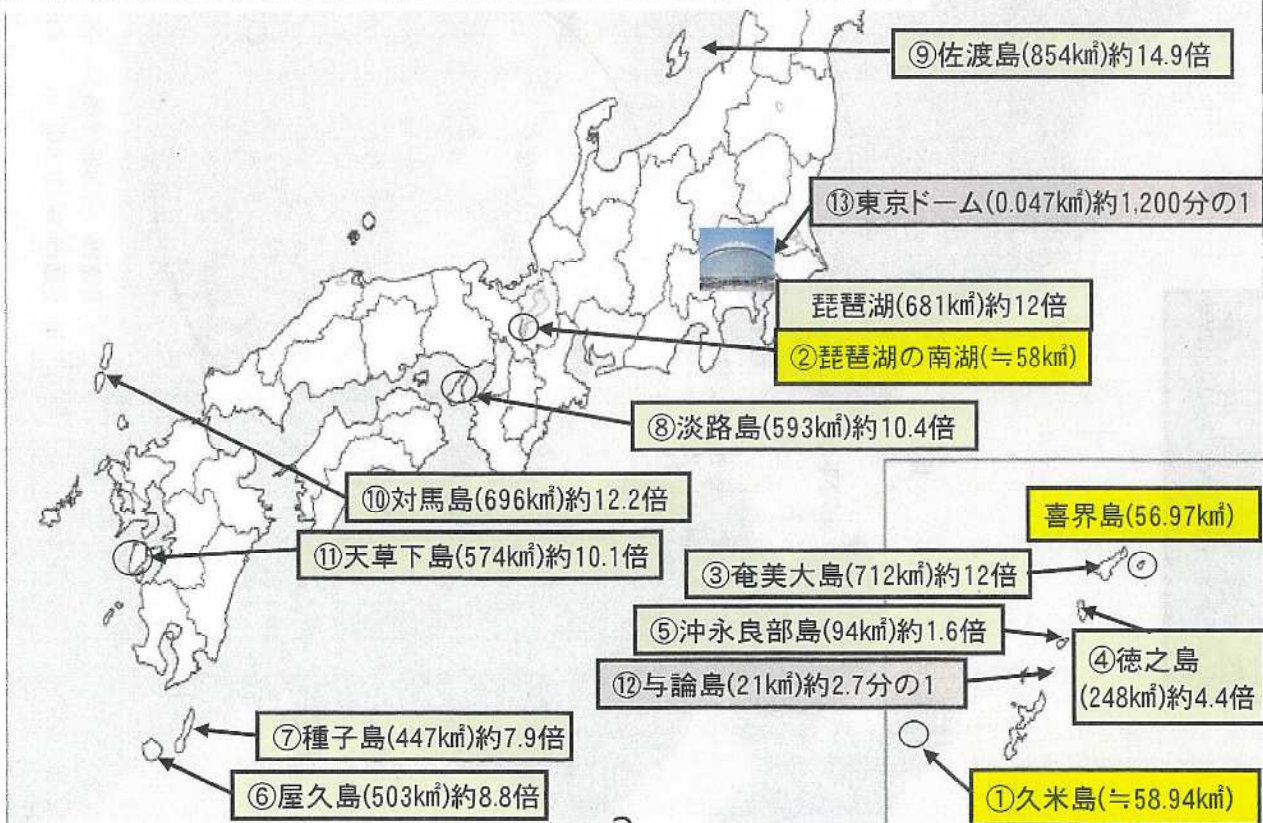
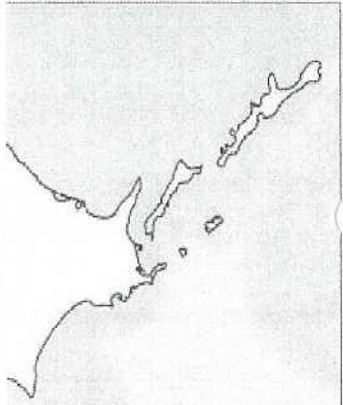
喜界町内ドクターヘリ ランデブーポイント(場外離着陸場:8箇所)



喜界町内 空港・港湾・道路等の状況



喜界島の面積



特定非営利活動法人喜界島サンゴ礁科学研究所

(喜界町)

1 設立目的

北西太平洋及び東シナ海の境に位置し、国際的にも希少な隆起サンゴ礁で形成された喜界島を拠点として、海洋、地質及びそれに関わる生物に関する調査、研究事業を行い、自然科学の発展と喜界島の経済的、社会的、文化的発展に寄与することを目的とする。(平成27年10月法人認証)



2 代表者等

代表 理事長 ^{わたなべ つよし} 渡邊 剛
(北海道大学大学院理学研究院 講師)
所長／副理事長 ^{やまざき あつこ} 山崎 敦子
(日本学術振興会特別研究員)

3 所 在

喜界町塩道1508 (「旧早町小学校」跡地)

4 研究所の活動

○ サンゴ礁研究調査

喜界島を拠点に世界中でサンゴ礁調査を実施。サンゴ礁を対象とし、環境学・地質学・生物学・生態学の分野横断的な研究成果を生み出すことを目指す。

○ 海洋観測

太平洋と東シナ海にまたがる喜界島で海洋観測を実施。喜界島は河川がなく、大陸・黒潮からも離れた島であり、北西大西洋のベースラインとなる貴重なデータの収集が期待される。

○ 科学試料の保管・ライブラリー

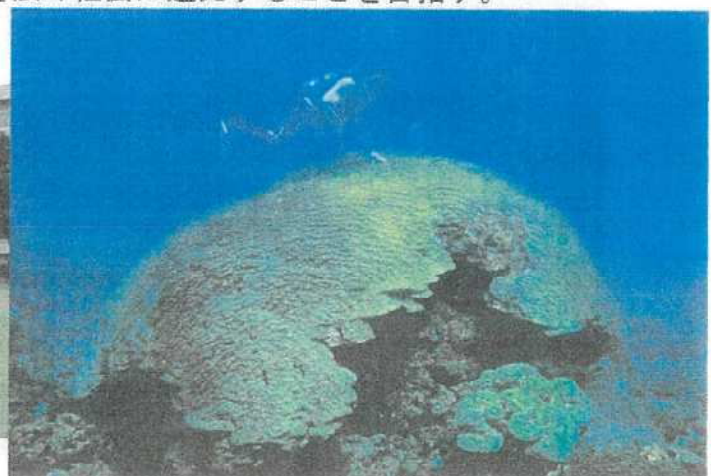
調査で得られた岩石試料・水試料を保管し、データベースを作成。研究所に保管される資料は新たな研究のために保存。また、貴重な図書資料を収集・保存する。

○ 科学教育・普及

未来の科学者を育てる活動に取り組む。また、喜界島やサンゴ礁に関する展示・セミナーを行い、研究成果を広く社会に還元することを目指す。



研究所全景



池治沖のハマサンゴ

テーブルバンタ

(喜界町)

喜界島を構成する石灰岩は、古くは約12万年前から造礁性サンゴが絶え間なく生き続けることにより生成された。年間約2ミリといわれる極めて早い隆起速度により、世界でも類い稀なるサンゴ礁段丘の景観を今に残している。

喜界島の南西部を見渡す中西公園周辺からは、地面ごと隆起した様子を知ることができる。



【参考】

隆起サンゴ石灰岩は、喜界島の周縁をとりまいて発達した低地である。なお隆起サンゴ石灰岩は、断層の影響を受けていない。

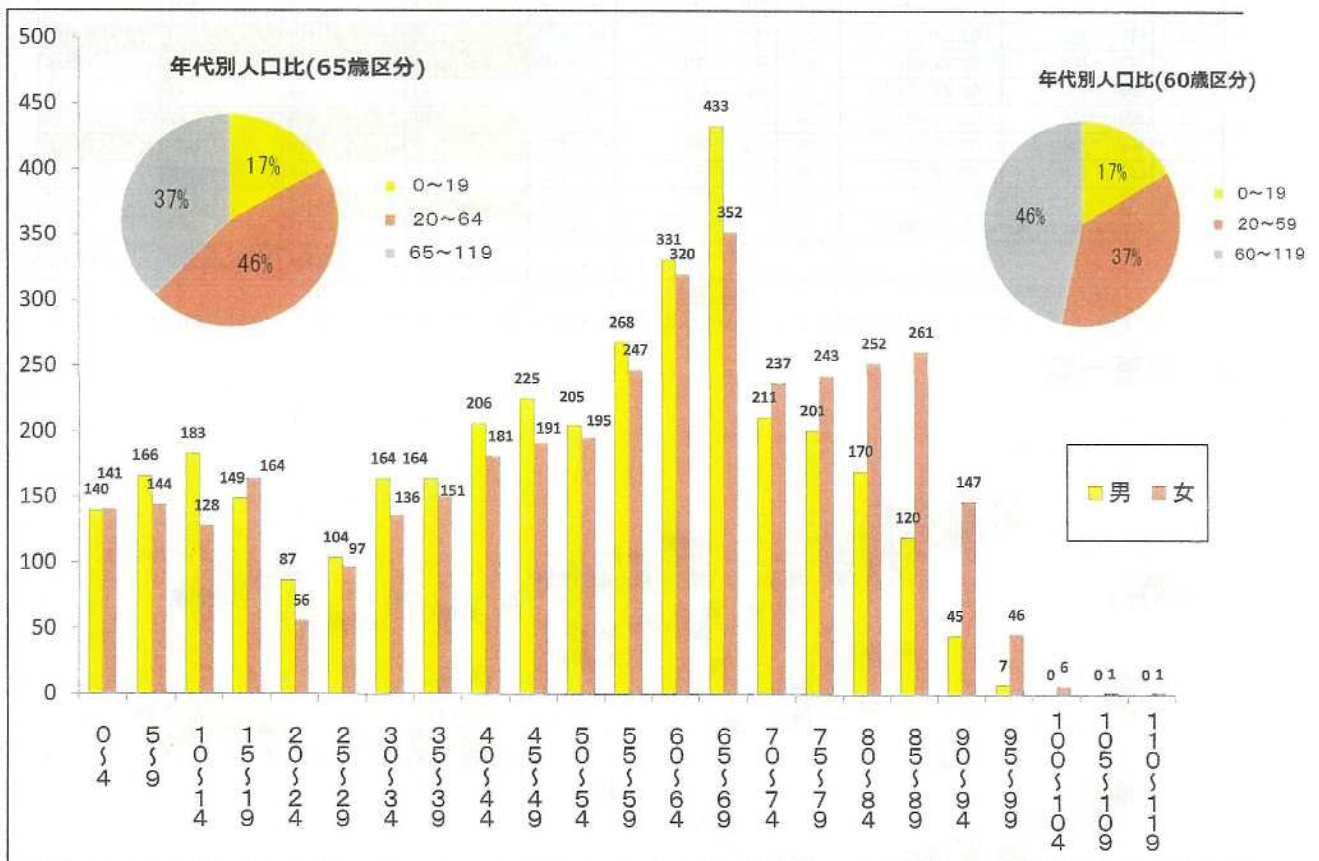
喜界町の人口

◆人口の移動



※ 出典:平成27年国勢調査
平成29年については、県統計課推計人口調査結果(H29.4.1現在)を用いた。

◆年齢5歳階級人口(平成29年8月15日現在) 7,276人



喜界町 大字・集落, 世帯数・人口及び集落一覧について

1 大字・集落, 世帯数・人口 (平成29年3月31日現在)

大字 (31)			集落 (37)			段丘	世帯数	人口 (人)		
NO	名称	よみ	NO	名称	総数			男	女	
1	赤 連	あかれん	①	赤 連	後氷期	585	1,116	567	549	
2	阿 伝	あでん	②	阿 伝	後氷期	41	76	35	41	
3	荒 木	あらき	③	荒 木	後氷期	252	471	237	234	
4	池 治	いけじ	④	池 治	後氷期	64	105	54	51	
5	伊 砂	いさご	⑤	伊 砂	後氷期	23	40	18	22	
6	伊実久	いさねく	⑥	伊実久	下位	59	103	50	53	
7	浦 原	うらはら (ささやま)	⑦	浦 原	下位	60	101	55	46	
			⑧	先 山	下位	57	103	56	47	
8	大朝戸	おおあさと	⑨	大朝戸	下位	37	61	31	30	
9	小野津	おのつ	⑩	前金久	後氷期	76	146	63	83	
			⑪	神 宮	後氷期	136	247	112	135	
10	嘉 鈍	かどん	⑫	嘉 鈍	後氷期	59	114	54	60	
11	上嘉鉄	かみかてつ	⑬	上嘉鉄西	後氷期	75	136	71	65	
			⑭	上嘉鉄中	後氷期	60	133	66	67	
			⑮	上嘉鉄東	後氷期	68	121	61	60	
12	川 嶺	かわみね	⑯	川 嶺	下位	120	169	96	73	
13	城 久	ぐすく	⑰	城 久	中位	48	92	48	44	
14	花良治	けらじ (がもち)	⑱	花良治	後氷期	59	98	47	51	
			⑲	浦 生	後氷期	24	36	17	19	
15	坂 嶺	さかみね	⑳	坂 嶺	後氷期	69	120	55	65	
16	佐手久	さてく	㉑	佐手久	後氷期	101	183	106	77	
17	塩 道	しおみち	㉒	塩 道	後氷期	94	188	90	98	
18	志戸桶	しとおけ	㉓	志戸桶東	後氷期	118	245	116	129	
			㉔	志戸桶南	後氷期	119	210	103	107	
19	島 中	しまなか	㉕	島 中	下位	31	49	24	25	
20	白 水	しらみず	㉖	白 水	後氷期	47	84	38	46	
21	早 町	そうまち	㉗	早 町	後氷期	64	112	53	59	
22	滝 川	たきがわ	㉘	滝 川	中位	21	30	12	18	
23	手久津久	てくづく	㉙	手久津久	後氷期	73	129	61	68	
24	中 熊	なかぐま (ささない)	㉚	中 熊	後氷期	34	63	30	33	
			㉛	先 内	後氷期	17	29	16	13	
25	中 里	なかさと	㉜	中 里	後氷期	338	748	360	388	
26	中 間	なかま	㉝	中 間	後氷期	24	49	23	26	
27	長 嶺	ながみね	-	長 嶺	中位	0	0	0	0	
28	西 目	にしめ	㉞	西 目	下位	12	19	11	8	
29	羽 里	はさと	㉟	羽 里	下位	58	106	42	64	
30	山 田	やまだ	㊱	山 田	下位	11	14	4	10	
31	湾	わん	㊲	湾	後氷期	655	1,360	677	683	
特養喜界園 (入所者)					後氷期	62	62	17	45	
合 計						3,851	7,268	3,576	3,692	

※ - 人口・世帯数 前年度に対して 増 変わらず 減
 - 段丘 ①上位(海拔150m以上), ②中位(110m前後), ③下位(80~20m), ④後氷期(20m以下)

2 集落一覧



喜界ターンに関する記事

1 【H29.1.12南日本新聞 1面】

南風録

「喜界ターン」というそう
だ。喜界島の喜界空港で旅客
機が滑走路に向かう際、見送
りの人がいると小さな機体を
8の字に転回させる。窓際の
左右どちらの乗客も見送りを受けられ
るようにするためだ▼島の旅立ちとい
えば、港で紙テープが舞い、別れを惜
しむ光景が浮かぶ。飛行機では味気な
いと思っていたが、喜界ターンが小さ
な島の空港の名物だと聞くと、機長の
粋な計らいに心が温まる▼3月から格
安航空会社（LCC）のパニラ・エア
が奄美―関西国際空港に就航する。関
西には奄美ゆかりの人が30万人近くい
るといふから大勢力である。新路線開
設を心待ちにしていた人も多いだろう
▼3年前に就航した成田線も好調だ。
昨年の奄美空港の定期便搭乗率では年
間トップで、夏場は9割を超える。日
本航空が飛んでいる羽田線から乗客が
流れたかと思うと、そうではないよう
だ▼羽田線の搭乗率も7割を超えてい
る。「新しい客層を掘り起こしてくれ
た」とは日航側の分析だ。格安運賃が
奄美の島々を旅するきっかけになり、
沖縄とは異なる魅力が首都圏に広まっ
てきたと考えればうれしい▼世界自然
遺産登録を見据える奄美には強力な追
い風となるに違いない。奄美大島の活
性化に向け、受け皿づくりも大切だ。
奄美空港での「8の字ターン」は無理
かもしれないが、人と人の心をつなぐ
路線としてしっかり根付いてほしい。

— < 2017・1・12 > —

2 【H28.6.28南日本新聞 16面】

出発する飛行機に手を振る見送りの客
喜界町の喜界空港



離陸前に8の字回転

喜界空港（喜界町中里）の
特徴は何といても親しみや
すさだ。

平屋のターミナル施設はバ
スの待合室のような和気あい
あいとした雰囲気。隣には高
倉をイメージした屋根付きベ
ンチシートがあり、フェンス
越しわずか十数メートルの距離に飛
行機が止まる。見送りの人々
は、機に乗り込む家族や友人
知人らにここから手を振る。

見送り客が多いと、離陸の
ため動き出した機は滑走路に

喜界

向かう前に、その場で8の字
に回る。左右の窓際に座る乗
客が、それぞれ見送りの人々
を見られるように行う機長の
粋な計らいだ。通称「喜界ター
ン」。始まった時期は定か
ではないが、空港の名物とな
っている。

10日、大阪に帰る親戚を見
送った喜界町小野津、農業兼
勇治さん(65)は「こんなに身
近で見送れると気持ちりが相手
に伝わる。喜界空港ならではの
笑顔で語った。(西青木亨)

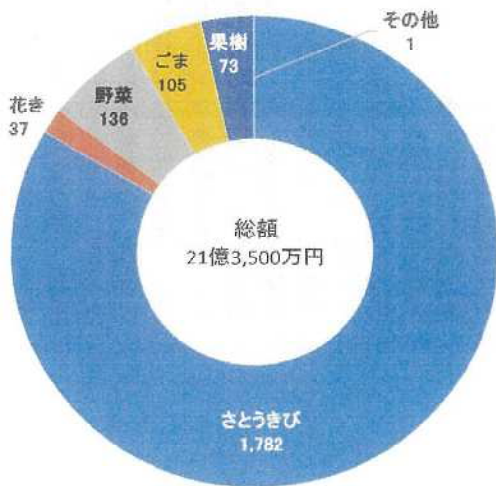
喜界島の農業

◆専・兼業農家戸数の推移

区分	年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
専業農家		198	431	420	381	363	345	361
兼業	1種	564	319	203	148	102	76	83
	2種	337	221	223	200	137	142	177
	小計	901	540	426	348	239	218	260
農家総数		1099	971	846	729	602	563	621

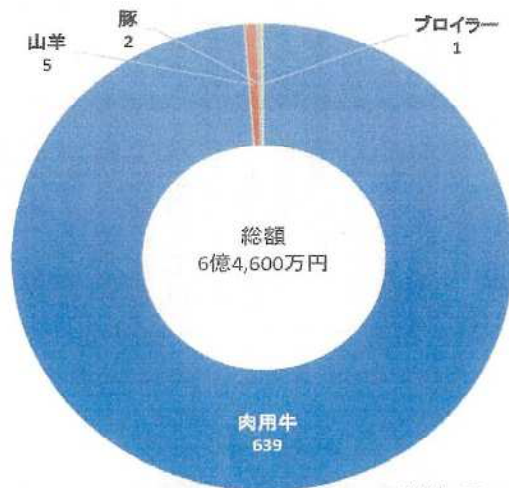
資料:農林業センサス

◆平成25年度農産物産出額



(単位:百万円)
資料:奄美群島の概況(平成27年度版)

◆平成25年度畜産物産出額



(単位:百万円)
資料:奄美群島の概況(平成27年度版)

◆農業粗生産額順位表〔平成27年〕

順位	作物名	粗生産額	構成比
1	サトウキビ	1,641,245	58.1%
2	肉用牛	852,788	30.2%
3	トマト	119,722	4.2%
4	カボチャ	54,314	1.9%
5	ゴマ	48,620	1.7%
6	キク	43,628	1.5%
7	マンゴー	33,000	1.2%
8	ブロッコリー	13,376	0.5%
9	メロン	11,723	0.4%
10	ソラマメ	5,308	0.2%
	計	2,823,724	100.0%

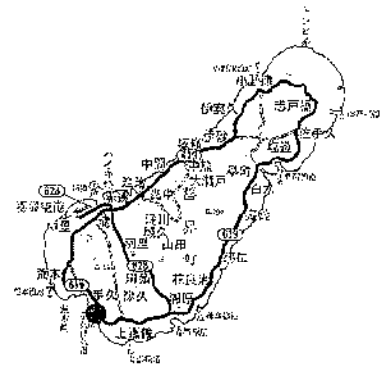
(単位:千円) 資料:農業振興課

喜界地下ダム（国営かんがい排水事業）の概要

（喜界町）

喜界島の地形・地質等の特性を最大限に利用した農業用水資源の地下水を開発して、畑地かんがいを行うために必要な地下ダム，基幹的農業水利施設を建設・整備した。

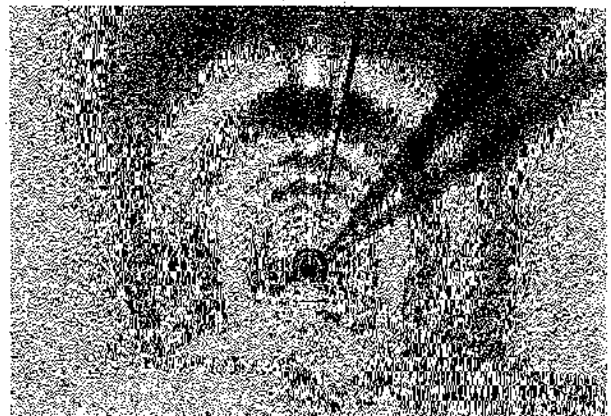
- ・事業年度 平成4年度～平成15年度
- 1期工事（地下ダム）：平成4年度～平成13年度
- 2期工事（パイプライン）：平成7年度～平成15年度
- ・受益面積 1,677ha



今までの雨待ち，雨頼り農業から計画作付けや適期かん水による収量の高位安定，品質の向上，そして収益性の高い新規作物の導入が可能となり，地域農業の発展に大きく貢献することとなった。

【地下ダムの概要】

- ・堤体長 2,280m（うちトンネル366m）
- ・堤高 35m
- ・堤体幅 55cm
- ・流域面積 580ha
（直接410ha，間接170ha）
- ・貯水面積 180ha
- ・貯留体積 2,250万 m^3
- ・総貯水量 180万 m^3
- ・有効貯水量 133万 m^3



※貯留体積の約8%が貯留水量

- ・全体事業費 251.0億円

年 度	主 な 事 業 内 容
昭和54年度～昭和60年度	地下ダム開発調査（地形・地質・水質等）
昭和61年度～平成3年度	地下ダム試験施工（技術・開発検証等）
平成4年度～平成13年度	ダム止水壁，トンネル，取水施設，送水管等
平成7年度～平成15年度	幹線・支線管水路，揚水機・加圧機場等

- ・主要工事 地下ダム（1基），取水施設（8箇所），送水管・幹線・支線水路（4.5km）
揚水機場（4箇所），加圧機場（1箇所），ファームポンド（6箇所）
- 1期工事：地下ダム，取水施設，送水管，揚水機場（1箇所）
- 2期工事：送水管・幹線・支線水路，揚水機場，加圧揚水機場，ファームポンド

加島邸（オオゴマダラ、アサギマダラ）

（喜界町）

オオゴマダラ蝶は、マダラチョウ科で、羽には白地に黒のマダラ模様、羽を広げると15センチメートルもある大型の美しい蝶で優雅に舞う姿から“南の島の貴婦人”とも呼ばれている。

食草のホウライカガミ（キョウチクトウ科）とともに、喜界島が北限と見なされている。

町は「オオゴマダラ保護条例」を制定。平成元年3月24日に公布した。



幼虫



金のサナギ



成虫



○加島邸（外観）所在地：喜界町大字荒木

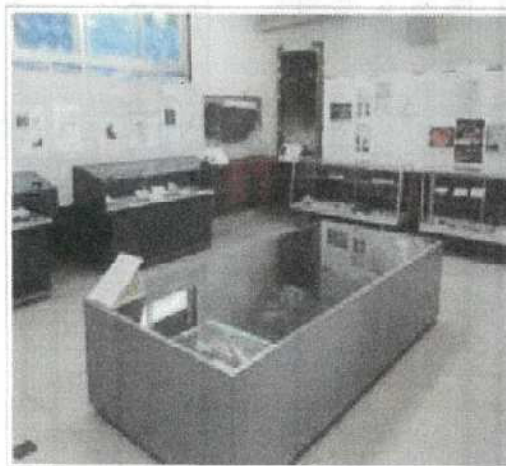
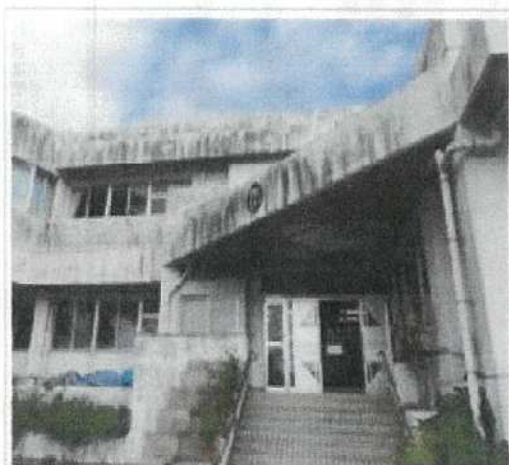


喜界町埋蔵文化財センター

(喜界町)

平成26年4月に喜界町の旧滝川小学校跡地を利用して、城久遺跡群などで見つかった出土物の調査や研究、保存活動、情報発信の拠点として開所した。

喜界町の文化財調査の拠点として、出土品の保存・調査に取り組むほか、常設展を一般にも開放しており、町内の遺跡から出土した貴重な資料を無料で閲覧できる。城久遺跡群から徒歩圏内にあり、全国各地から考古学ファンが訪れるなど、喜界町の新たな観光資源として期待されている。



(参考)

喜界町の主な遺跡群

- ①城久遺跡群・・・山田中西、山田半田、半田口、小ハネ、前畑、大ウフ、半田、赤連の8遺跡が立地。
- ②総合グランド遺跡・・・島内で最も古い縄文時代(前期)の遺跡。
- ③手久津久地区の遺跡群・・・崩り、川尻、中増、川寺の4遺跡が立地。
- ④荒木地区の遺跡群・・・カ子ンテ、荒木貝塚、クマテ、桑マシ、上才、ケブラノコシ、ケブラノ前遺跡が立地。

喜界島年表

※ 「埋蔵文化財ガイドブック」から引用

日本	日本のできごと	喜界島のできごと・伝承	島内で見つかったいる遺物、遺構	関連する島内遺跡
旧石器時代	打製石器の使用 縄文土器、磨製石器の使用 竪穴住居の集落		縄文早期土器(喜界島で最古の土器) 縄文土器、磨製石器 竪穴住居の集落跡 大型円形土坑の使用 黒曜石製鎌(やじり)の使用 腕に貝輪をつけた人骨が埋葬された墓	総合グラウンド遺跡(溝) 湾天神貝塚など、島内の様々な遺跡から出土 クマテ・カチンテ・上才遺跡(荒木)、川寺・崩り・中増遺跡(手久津久)、ハンタ遺跡(西目) 川尻遺跡(手久津久) 見付山遺跡(溝)、カチンテ遺跡(荒木) 荒木農道遺跡
縄文時代				
弥生時代	稲作の開始、青銅器・鉄器が大陸から伝来 祝国王が金印を賜る(57年) 卑弥呼が親魏倭王の号を賜る(238年) 倭の五王が中国に朝貢		兼久式土器の使用 ヤコウガイ集積、貝匙の出土 北九州で見られる青銅製の鋤先の出土	先山遺跡など、島内の様々な遺跡から出土 川尻遺跡(手久津久)
古墳時代				
飛鳥時代	仏教の伝来(583年) 遣唐使始まる(630年)			
奈良時代	平城京に遷都(710年) 平安京に遷都(794年) 遣唐使を廃止する(894年)	大宰府が賞罰島に下知し、南蛮船を捕らえさせる(988年、日本紀略) 酒為朝が喜界島の小野津に流れ着いたといわれる(1165年) 曾根原・藤原成経・平康頼が現存喜界島に流される。(鹿か谷の諺)後二人は許され鳥を飼われるが、後者は許されず島で没したと伝わる(1177年) 源頼朝の命で天野彦重らが喜海島討伐、平定(1187~1188年) 平賀盛の率いる平家の殘党200余名が志戸桶の沖名泊に上陸したと伝えられている(1202年)	四面庇(ひさし)状大型獨立柱建物 火葬された墓 越州窯青磁(中国)、初期高麗青磁など貴重な輸入陶磁器、東海地方の灰釉陶器 獨立柱建物 かみ・ヤギの流通(徳之島産) 滑石製石臼の流通(北部九州産) 鉄製品の製作(磐石炉跡) 製鉄が行われる(製鉄炉跡)	城久遺跡群 オン畑・巻畑C遺跡(小野津)など 城久遺跡群など、島内の様々な遺跡から出土 掘り遺跡(堀道)など、島内の様々な遺跡から出土 城久遺跡群、川寺・中増遺跡(手久津久) 崩り遺跡(手久津久)、城久遺跡群
鎌倉時代	源頼朝、鎌倉幕府を開く(1192年)		土葬の墓 大型の溝で区画された集落 倉庫跡 金が施された銅製品	川寺・崩り・中増遺跡(手久津久)、城久遺跡群 川寺・中増遺跡(手久津久) 川寺遺跡(手久津久)
室町時代	モンゴルの襲来(1274・1281年) 応仁の乱(1467~1477年)	琉球王尚徳、喜界島を致意(1466年) 謝国富ヒギに属するさわの錠を志戸桶間切大城大屋職に任じる(1554年) 首里王府、喜界島東間切阿伝ノ口に委かたるを任じる(1569年・ノ口制度の確立)		
安土・桃山時代				
江戸時代	徳川家康、江戸幕府を開く(1603年) ペリー一浦和に来航(1853年) 大政奉還(1867年)	徳薩藩の琉球侵攻(1609年) 鬼界島置目条々を公布し、島政を改革(1623年) 大久保宗玄右衛門(大久保利通の父)小野津に配流(1850~1854年)村田新八、藩に配流(1862年) (P32参照)		川原遺跡(手久津久)
明治				
大正	第一次世界大戦勃発(1914年)			
昭和	太平洋戦争開戦(1941年~1945年)	奄美諸島日本にする(1953年)		

村田新八修養之地の碑

(喜界町)

村田新八は、1862年（文久二年）島津久光公の激怒を被り、西郷隆盛は徳之島へ、村田新八は喜界島へ島流しとなった。当時喜島家（現中沢家）に預けられ、約2年の歳月を過ごした後、1864年に赦免され、その後上京し倒幕に活躍した。



【参考】

村田新八は1836年（天保7年）鹿児島城下の高橋家に生まれ、名は経満・経磨。後に村田家に入り1877年（明治10年）西南戦争で42歳生涯を終えた幕末・明治維新に活躍した薩摩藩士である。喜界島での生活中、村田新八は島民に読み書きからトイレの使い方まで教えたといわれている。西郷隆盛からの信望が厚く、赦免された西郷隆盛は途中、村田新八を鹿児島へ連れ帰るために喜界島へ立ち寄っている。その際、西郷隆盛をもてなすための宴会を行った場所でもあり、村田新八の喜界島での生活の拠点でもあった屋敷跡である。

俊寛の墓

(喜界町)

この墓地付近は、昔から「坊主の前」という地名で呼ばれ、この地に俊寛僧都の墓と伝えられる墓石があり、その下から人骨及び金具と木片が発見された。喜界町は昭和50年10月当時、国立博物館の人類学部長 鈴木 尚氏に鑑定を依頼。その結果、人骨については現代人の形相ではなく、歴史時代人として相当の身分の高い人物の遺骨と推定。同時に発見された立派な隅金具のついた木棺は、木曾地方に産するクロベ材と鑑定され、俊寛僧都の墓であることに自信を深めた。



京都市にある、平安博物館では、この人骨を原形とする等身大の座像を安置し、昭和60年3月24日に開眼供養が行われた。

俊寛僧侶は、1177年(治承元年)京都鹿ヶ谷にて平清盛討伐謀議のかどで喜界島に遠島され、1180年(治承4年)赦免されることなく生涯を閉じた。



【参考】

喜界町体育館の南隣に奄美独特の建物、高倉の柱を用いた2.8メートル四方の小さな建物に石灰岩の墓碑が建っている。これが俊寛僧都の墓といわれ、その前俊寛の座像が安置されている。墓は幅44センチメートル、奥行41センチメートル、高さ24センチメートルの石灰岩の台座に、幅32センチメートル、奥行24センチメートル、高さ58センチメートルの石柱が立っている。正面には文字が刻まれた跡があるが、判読できない。

えんたいごう
掩体壕

(喜界町)

掩体壕（えんたいごう）とは、戦闘機を敵の攻撃から守るための格納庫である。

太平洋戦争末期，現在の喜界飛行場は，沖縄方面の敵艦隊へと向かう襲撃機・特攻機が整備・給油を行うための中継飛行場となっていた。

当時，戦闘機を米軍の爆撃から守るため，島内の50数箇所に掩体壕が建設されたが，有蓋コンクリート製のものはこの1箇所だけであり，残りは三方土盛をして木の枝などでカモフラージュしただけの簡易なものであった。

なお，このコンクリート製の「掩体壕」は，主に戦闘機の整備場として使用されていた。



戦闘指揮所跡

(喜界町)

当史跡は第二次世界大戦遂行のために形成され、建造物として残されたものである。

喜界島の飛行場は、海軍航空基地であり、昭和20年米軍が沖縄上陸後、戦争遂行上の最重要基地として連日連夜にわたり米軍機の猛攻撃を受けた。

薄暮本土から飛来し、翌日明け方沖縄へ飛び立つ特攻機の整備をした飛行場で、この建物の中で戦闘の指揮をしたと言われている。



【参考】

この「戦闘指揮所跡」は、軍事的な判断、指揮命令が行われていた場所で、特攻隊員も出撃前はこの場所で作戦指示を受けていたと言われている。いつ建設されたは当時、高度機密であったため不明であるが、現存する戦闘指揮所の建物としては国内ではここに残っているだけである。